第８回農林水産業・地域の活力創造本部

環境省
Ministry of the Environment

資料5

鳥獣被害対策及び里山保全

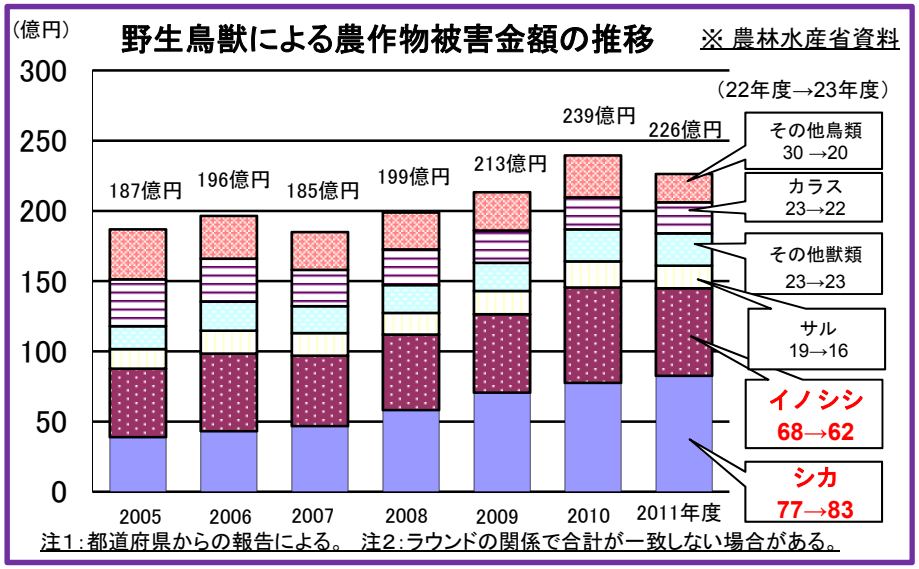
～美しく伝統ある農山漁村を次世代に継承するための施策～

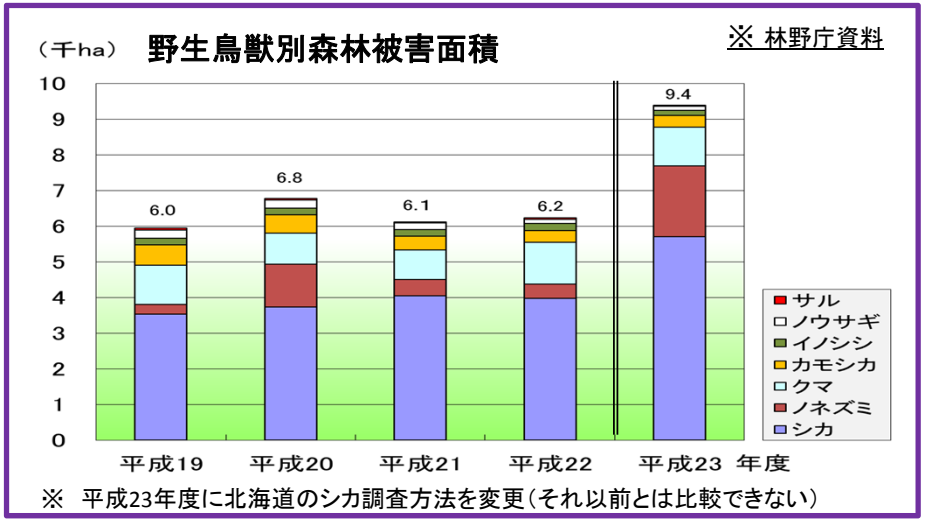
平成25年11月
環　境　省

鳥獣被害の現状

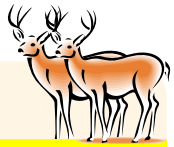
➢ 野生鳥獣による生態系、農林水産業、生活環境被害が、拡大・深刻化

○ 農作物被害額：年間200億円前後で高止まり
○ 森林被害面積は年間9千ha（シカ被害が顕著）





ニホンジカによる生態系への影響



○ 樹皮を食べることで樹木が枯死し森林が衰退
○ 地表に生える植物を過度に食べ、生態系が単純化
○ 全30国立公園のうち20の公園に被害

樹皮剥ぎによる森林衰退（剣山国定公園）

※ともに高知県鳥獣保護課提供

高山帯のお花畑の消失（南アルプス国立公園　塩見岳）

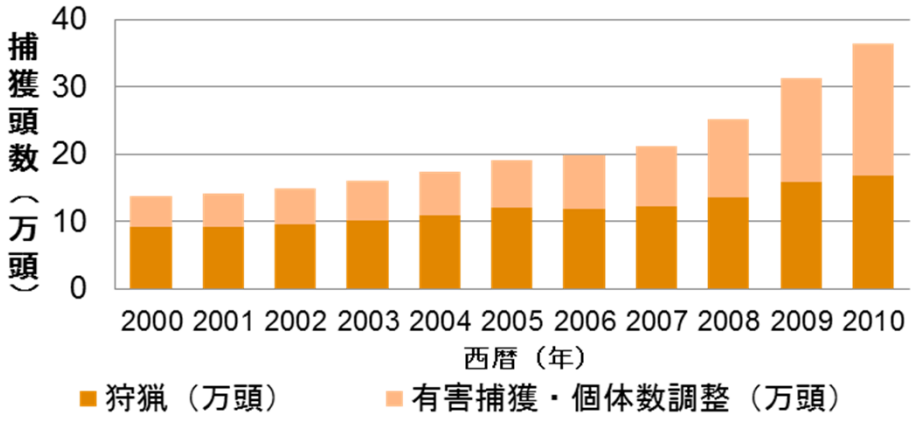
※増沢武弘氏撮影　※鵜飼一博氏撮影

○ 集落に出没した鳥獣による住民のけがの発生や、列車・自動車事故等の生活環境被害の増加
○ 森林が持つ水源涵養や国土保全機能の低下

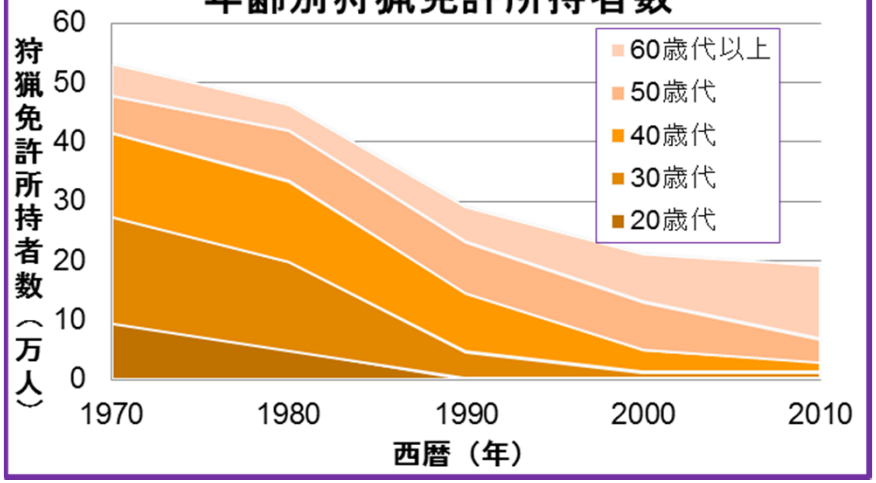
鳥獣被害対策の課題

➢ ニホンジカ等の生息域拡大と個体数増加、狩猟者の減少・高齢化による鳥獣捕獲の担い手不足

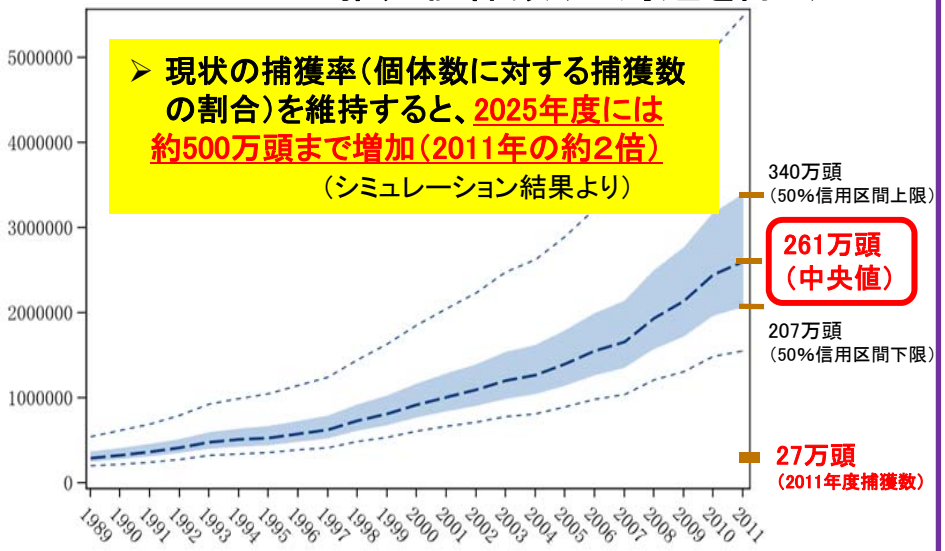
ニホンジカの捕獲頭数



年齢別狩猟免許所持者数



ニホンジカの推定個体数（北海道を除く）



➢ 現状の捕獲率（個体数に対する捕獲数の割合）を維持すると、2025年度には約500万頭まで増加（2011年の約2倍）
（シミュレーション結果より）

（参考）2011年度の北海道の推定個体数は約64万頭、捕獲数は約14万頭（北海道資料）

現在実施している主な対策

①担い手確保対策

- 狩猟者を増やすためのフォーラムの開催
- 地域ぐるみの捕獲を進める研修会の開催

②効果的な捕獲の推進

- 鳥獣保護管理の専門家の人材登録事業
- 行政担当職員を対象とする研修
- 大量捕獲手法の検証（高度な射撃技術、大型囲いわな等）

③国立公園等におけるニホンジカの捕獲

（例：知床国立公園では、2011年度 は856頭捕獲）

狩猟の魅力まるわかりフォーラム

鳥獣保護法の見直しについて

➢ **鳥獣被害の現状と課題を踏まえ、鳥獣保護管理に携わる人材の育成及び捕獲体制の強化等が急務**

● 今後講ずべき措置について中央環境審議会に諮問（平成24年11月）。自然環境部会「鳥獣保護管理のあり方検討小委員会」において検討

鳥獣管理の充実

➢ 深刻な被害を及ぼしているシカ、イノシシ等について、従来の捕獲規制とその解除による鳥獣の「保護のための管理」という考え方から、積極的な「管理（マネジメント）」に転換。

鳥獣管理体制の強化

➢ シカ等の捕獲を行う事業者を認定する制度を創設。捕獲許可手続きを簡素化し事業の円滑な実施を支援。

➢ 地域の若い捕獲従事者を確保する観点からわな猟・網猟の免許取得年齢(現20歳以上)を引き下げ

都道府県等による捕獲の強化

➢ 全国的に被害が深刻化しているシカ等について、都道府県や国が捕獲事業計画を策定して事業を実施

※捕獲事業に係る規制緩和の例
- 捕獲許可を不要とする
- 夜間の銃による捕獲を可能とする（認定事業者が行う場合）

被害防止のための捕獲の促進に向けて

➢ 国が、シカ等の個体数の調査や都道府県の取組の評価を行う等、都道府県に対する指導力を発揮
➢ 被害の状況や捕獲の意義・必要性について国民の理解を醸成

● 年内目途に答申案のパブリックコメントを実施。１月頃、中央環境審議会答申予定。
⇒ 答申を踏まえて、鳥獣保護法の改正も含めた対策の強化を検討。

鳥獣被害防止特措法を所管する農林水産省等、**関係省庁との連携が必要**

里地里山保全を通じた多面的機能の維持・向上

➢ **里地里山の生物多様性の危機**

国土の４割を占める里地里山では、産業構造や資源利用の変化、人口減少及び高齢化等に伴い、自然に対する働きかけが縮小し、**動植物相の変化や生物の生息・生育環境の質が低下**

➢ **里地里山での生物多様性保全の方向**

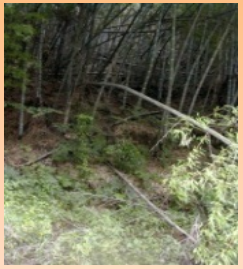
人口の減少と高齢化が進む中で、今後の自然的・社会的条件を踏まえ、**自然の遷移に任せて森林に移行させて行く地域や重点的に保全すべき里地里山を明らかにする**等、総合的な判断も必要

（生物多様性国家戦略2012-2020（平成24年9月閣議決定）

現　状

○日本の人口は2008年をピークに、今後減少し、国土交通省国土政策局推計によると、2050年までに現在の居住地域の約2 割が無居住化と予測

○特に中山間地域や奥山周辺では2050年までに3～5割が無居住化すると予測され、里地里山と人との関わりがこれまで以上に減少と予測（生物多様性国家戦略2012-2020）



生息環境の悪化

放置された竹林　　耕作放棄地

マルコガタノゲンゴロウ
（絶滅危惧種Ⅰ類）

ミヤコタナゴ
（絶滅危惧種Ⅰ類）

人の関与が失われたこと（管理放棄・遷移進行）が減少要因である絶滅危惧種は約550種

里地里山保全活用推進事業

平成24年度まで

地域で保全活動に参加する団体を技術的に支援

・技術研修会の開催
・技術的方策、事例の収集・発信
・保全活用の手引書等の作成

等

平成25年度～26年度

生物多様性保全上重要な里地里山の選定

・野生動植物の生息・生育状況や国土配置等を踏まえ、国レベルでの生物多様性保全上重要な地域を選定
・日本の二次的自然環境での生物　多様性保全を促進

★評価の観点

備え持つ資質
・生物多様性
・生態系サービス

国土配置
・生態系ネットワーク

保全活用の持続性
・居住者の存在
・農林業の持続性等

生物多様性保全上重要な里地里山の選定

保全・管理の効率的な実施

農林水産省との連携

美しく伝統ある農山村継承への貢献